



皆さんは、動物園に遊びに来た時に「なぜ?」「どうして?」と思ったことはありませんか?

「教えて!飼育員さん!」は、来園者の皆さんからの疑問に飼育員がお答えする企画です。

それでは早速、質問にお答えしましょう。

今回の質問はこちら。

ペンネーム: ひのとかえで さん からの質問
なんでしゃべれる鳥としゃべれない鳥が
いるの?

ご質問、ありがとうございます。

世界には、きれいな声で鳴いたり、音を真似したりすることが得意な鳥がいます。例えばスズメの仲間は、その美しい鳴き声から鳴禽(めいきん)類と呼ばれることもあります。また、キュウカンチョウや、インコ・オウム仲間などは、音を上手に真似する鳥という印象があるのではないのでしょうか。

今日は、そんな音を真似することが得意な鳥のヒミツについて解説をしていきます。

音を真似することが得意な理由の1つとして、音を出す器官が発達していることがあげられます。鳥には、人間のような「声帯」はありませんが、首の付け根に音を出す特別な仕組みである「鳴管(めいかん)」と呼ばれる器官があります。鳥が鳴く時には、鳴管の膜を震わせて音を出しますが、この膜をどのくらい器用に

動かすことができるのかによって、出すことができる音の高さや音色の複雑さが決まってくるのです。音を真似することが得意な鳥は、鳴管の膜が発達しているため、様々な音を出すことができます。



また、もう1つの理由として、音を真似するための脳が発達していることがあげられます。動物の脳は、それぞれの動物種がたくさん使う部分が発達していますが、音を真似することが得意な鳥の脳は、音を聞いて学習する時に使う部分の脳が、他の鳥に比べて発達しています。そのため、聞いた音を繰り返し練習することで覚えることができます。

このような特性を持つ鳥が、人間に飼育されるなどした場合、よく聞く人間の言葉を覚えて、真似をして鳴くことがあります。特に、インコやオウムの仲間は、同じ言葉を返すだけでなく、まるで会話をしているかのような返答をすることもあります。鳥がまるで人間のように鳴く姿はとても可愛らしいため、インコやオウムの仲間をペットとして迎えたいと思う人も多くなっているようです。しかし、彼らは野生動物。音を真似する能力は本来、仲間とコミュニケーションを取ることで野生の厳しい環境を生き抜くために身につけたものだということも、忘れないようにしたいですね。